



# 芝草通信

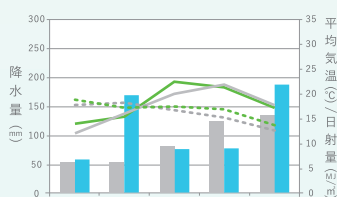
## “2017年の夏を振り返る”

気象条件と病害診断の推移から読み取れること

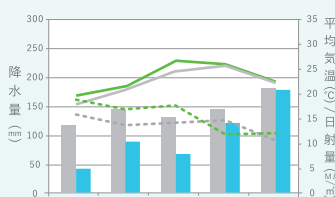
### 2017年は どんな夏だった？

2017年夏の気象データ

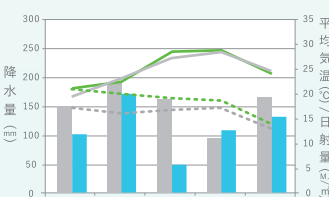
— 年平均気温 2017年降水量  
— 2017年平均気温 2017年日射量  
■ 年平均降水量 2017年日射量



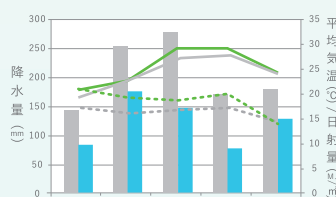
北海道



関東(東京)



関西(大阪)



九州(福岡)

全国的に7月の気温は平年よりも高かった。

北海道では6月の降水量が平年の3.6倍と非常に多かった。

それ以外の地域では、梅雨時期の降水量は少ない傾向が見られた。

関東地方では8月の日射量が平年よりも約20%少なかった。

九州は高温少雨で厳しい夏となった。

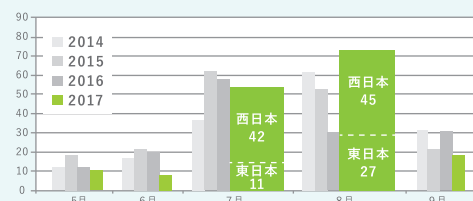
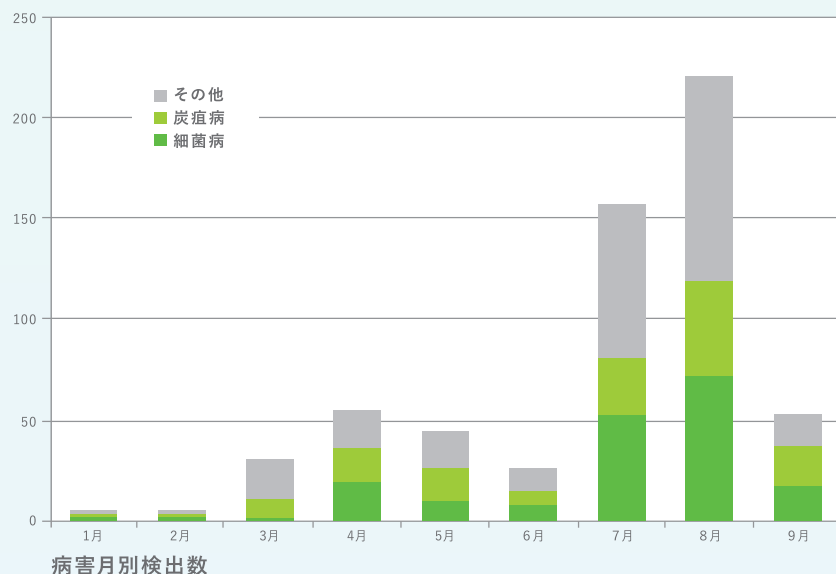
### 2017年1月～9月の バイエルが行った病害診断結果

例年に比べて6月の診断数が少なかった。

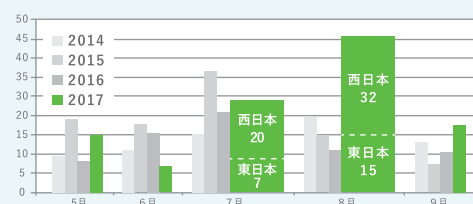
8月の細菌病及び炭疽病の検出数が多かった。

炭疽病は東日本で8月に増加した。

細菌病は全国的に8月に増加した。



炭疽病の月別検出数



細菌病の月別検出数

## 2017年 夏の特徴

5-6月は降水量が少なく、  
晴天の日が多かったため、  
病害の発生が少なかった。

7月は全国的に気温が高く、  
ベントグラスに病害が  
発生しやすい気象条件であった。

8月は東日本では日照不足、  
西日本では高温少雨と  
気象条件が分かれた。

どの地域でもベントグラスにとっては  
厳しい気象条件となり、  
細菌病は全国的に増加し、  
炭疽病は特に東日本での増加が顕著であった。

### ストレスガード製剤のプログラム予防散布で期待できる効果

- ☑ 高温、日照不足、多雨など、どのような気象条件になってもターフクオリティを維持しやすい。
- ☑ 芝生を健全に生育させることによって、病害等のストレスへの抵抗力をアップできる。
- ☑ 通常管理区に比べて殺菌剤の散布回数が少なくなり、管理コストの削減を図れる。
- ☑ 夏場のグリーン管理に余裕が持てることにより、他の作業にも注力できるようになる。



通常管理区

ストレスガード製剤  
プログラム散布区

2017年度試験結果(関東地区)

ぜひ来夏はストレスガード製剤のプログラム散布をご検討ください。

**ストレスガード製剤**  **StressGuard®**  
FORMULATION TECHNOLOGY



ピシウム病・赤焼病に対する高い予防効果

**シグネチャーWDG**



2つの有効成分でしつこい病害と  
サマーデクラインをシャットダウン！

**インターフェースフロアブル**



幅広い病害に安定した効果

**ミラージュフロアブル**